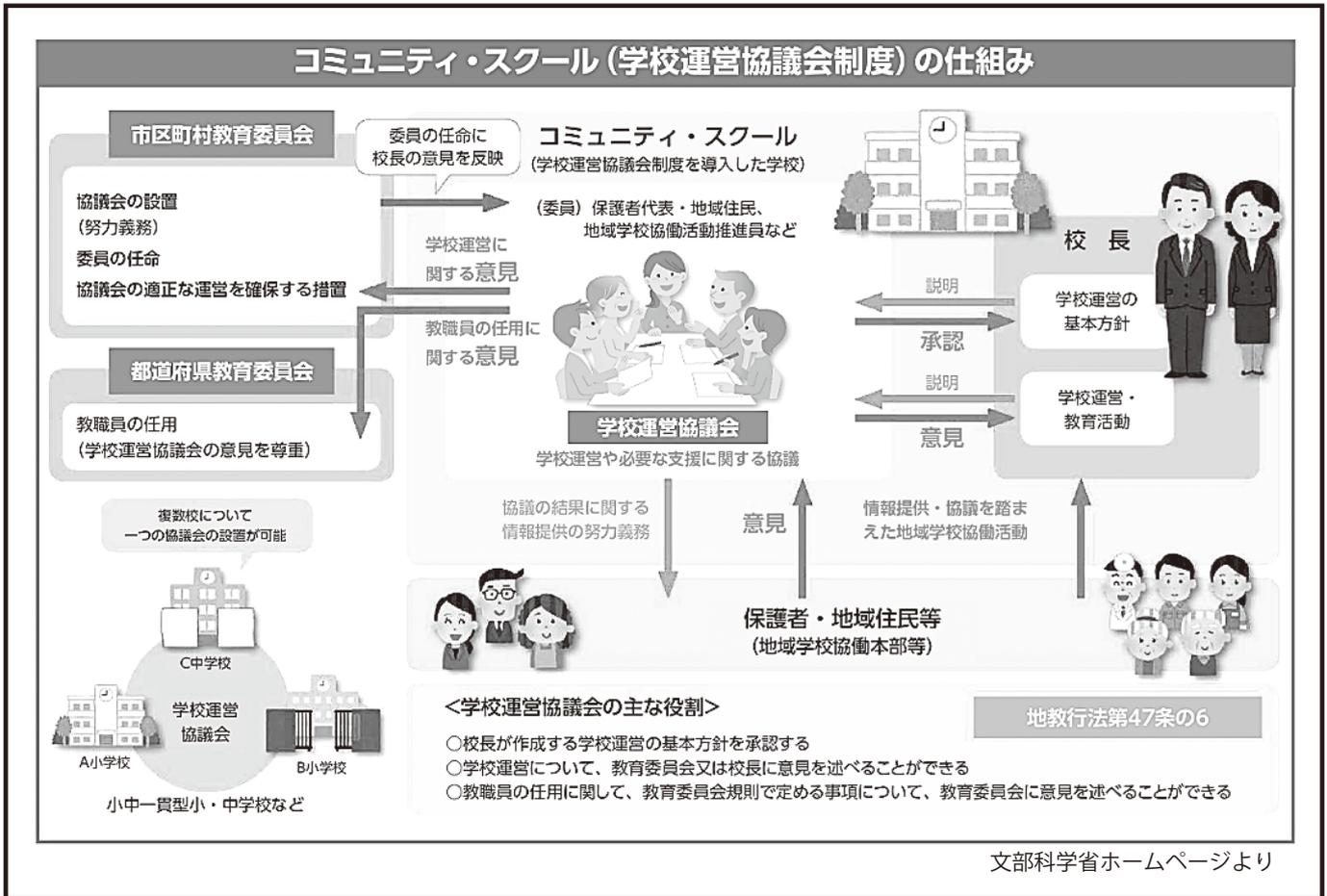


学校運営協議会制度研修

学校運営協議会（コミュニティスクール）という言葉をご存知でしょうか？学校運営協議会とは、学校・家庭・地域の代表が、学校の教育活動が子どもにとってよりよいものになるよう、それぞれの立場から意見を出し合うことにより、学校だけに頼らない地域総がかりで子どもたちを育てていくという仕組みです。

具体的には下図のような仕組みです。校長が学校運営の方針を示し、地域・家庭がそれを認めたり、意見を伝え合ったりし、共に教育活動にあたります。例えば、学校があいさつを大事にしたいという方針を示した時、それを地域・家庭の代表が承認し、地域もあいさつで元気にしようという共通の目標を持ちます。学校の教員だけではなく、地域住民・家庭においてもあいさつを大事にして子どもに接することで、教育効果が高まり、子どもの良いあいさつにつながります。さらには一つの目標に向かって取り組むことにより地域の活性化にもつながると考えられます。

日本全国でこの制度を導入している学校が約1万校あります。西ノ島町でも、子どもを地域で育てることを目指し、導入を検討しているところです。先般、教職員・地域の代表者（学校



評議員など）・家庭の代表者（PTA役員など）41名が制度の概要や仕組みを学ぶための研修会を計画しました。鳥取県南部町教育長の福田範史氏を講師に、新型コロナウイルス感染拡大予防のためDVDでの講演となりました。その中で、南部町では、「地域で子どもに対する指導は、今まで、学校に電話で伝えて終わりだった。しかし、この制度を始めてから、地域の大人が直接関わるようになった。」という話がありました。さらには、子どもの地域への愛着の高まりや安全の確保など様々なメリットがデータをもとに紹介されました。

研修参加者からは、「地域で子どもを育てるという考え方には大賛成である。」「制度が効果的に活用されれば子どもの成長にとって有用である。」「連携や目標の共有のためには、定期的に顔を合わせて話したい。」「地域とともにある学校のために、教員も地域にもっと出ていかないとならないと思いました。」「予測不能な未来を生きる子どもにとって、地域のような広い世界で学ぶことは大事である。」などの意見が聞かれました。

今後、この意見を参考にし、より良い学校運営協議会の持ち方を検討し、地域ぐるみで子どもを育てる西ノ島町を目指していきます。

公民館の取組

ふるさと子ども探検隊

じょんじょん太鼓を体験しよう！

9月25日（土）、中央公民館でふるさと子ども体験隊『じょんじょん太鼓を体験しよう！』を行い、小学生7名が参加しました。

これは和太鼓グループのじょんじょんさんに太鼓を習いながら地域文化に触れてもらうことを目的として行っている活動です。

初心者コースと経験者コースに分かれて活動しました。



▲初めて参加する児童に丁寧に教えてくれました

初心者コースは一つのリズムを丁寧にじっくりと学び、初めて和太鼓に触れる楽しさを体験しました。

経験者コースでは難しいリズムにも挑戦し少し難航するかと思いましたが、子どもたちの上達は早く、じょんじょんさんも驚かれています。最後には初心者も経験者もじょんじょんさんも一緒に「パプリカ」を演奏しました。

子どもたちがどのくらい出来るのか不安でしたが、「パプリカ」のリズムがとても覚えやすく演奏に集中して出ていました。同じリズムを揃えて演奏するだけでなく、各々が自分のリズム



▲昨年も参加している児童はおさらいしながら

ムで太鼓を叩いたことが子どもたちの楽しさに繋がっているようでした。迫力のある音や子どもたちの堂々とした演奏に、聞いていた大人たちから、自然と拍手が起りました。

また、最後は礼をして終わり、「礼に始まり礼に終わる」ということもしっかり学んだ活動となりました。

じょんじょんさん、ありがとうございました。



▲みんなでそろえて大迫力



▲はじめと終わりは礼をします